



平成25年4月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成24年12月7日

上場会社名 株式会社 ロック・フィールド

上場取引所 東 大

コード番号 2910 URL <http://www.rockfield.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 岩田 弘三

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員経理部部長 (氏名) 伊澤 修

TEL 078-435-2800

四半期報告書提出予定日 平成24年12月14日

配当支払開始予定日

平成25年1月18日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年4月期第2四半期の業績(平成24年5月1日～平成24年10月31日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年4月期第2四半期	23,586	△2.1	616	△40.2	645	△39.0	365	△37.6
24年4月期第2四半期	24,084	5.6	1,029	15.0	1,057	15.6	586	25.6

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年4月期第2四半期	27.56	—
24年4月期第2四半期	44.18	—

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
25年4月期第2四半期	28,429	22,483	79.1
24年4月期	29,004	22,560	77.8

(参考) 自己資本 25年4月期第2四半期 22,483百万円 24年4月期 22,560百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年4月期	—	18.00	—	32.00	50.00
25年4月期	—	18.00	—	—	—
25年4月期(予想)	—	—	—	22.00	40.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

平成24年4月期の期末配当32円には、創業40周年記念配当10円を含んでおります。

3. 平成25年4月期の業績予想(平成24年5月1日～平成25年4月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	48,920	△0.5	1,851	△27.5	1,892	△26.9	934	△35.1	70.32

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(注)詳細は、添付資料P.4「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項」(2)会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 をご覧ください。

(3) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

25年4月期2Q	13,394,374 株	24年4月期	13,394,374 株
25年4月期2Q	113,465 株	24年4月期	113,419 株
25年4月期2Q	13,280,941 株	24年4月期2Q	13,281,042 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了しております。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する定性的情報	2
(2) 財政状態に関する定性的情報	3
(3) 業績予想に関する定性的情報	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	4
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期財務諸表	5
(1) 四半期貸借対照表	5
(2) 四半期損益計算書	7
第2四半期累計期間	7
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 継続企業の前提に関する注記	9
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	9

※ 当社は、以下のとおり投資家向け説明会を開催する予定です。この説明会で配布した資料等については、開催後、当社ホームページに掲載する予定です。

・平成24年12月10日（月）・・・機関投資家・アナリスト向け決算説明会

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する定性的情報

当第2四半期累計期間（平成24年5月1日～10月31日）における日本経済は、震災復興需要等により一部に明るい兆しもありましたが、EUの金融財政問題やそれに伴う新興国の景気減速等の懸念、円高の継続等、景気は先行き不透明な状況が続きました。

また雇用・所得環境も大きな改善は見られず、依然として個人消費の節約志向は継続する中で、そうざい業界ではコンビニエンスストアにおける一層のそうざい販売強化や百貨店の増床や改装に伴う新規参入等によるそうざい店舗の増加等、競争は一段と激化しております。

このような状況の中、当社は「The Mirai Salad Company」を目指し、売上の核となる定番商品のブラッシュアップや新しい商品群の品揃えの強化に取り組みました。サラダに加え、より鮮度を重視したスープやフライの展開や冷凍適性の高い商品の新規投入にも着手する等、今日のおそうざい、明日以降のおそうざい、手土産としてのおそうざい等、お客様のライフスタイルに応じた商品展開を目指しました。しかし、競争の激化と個人消費の節約志向が続いたことや利益確保のためのコスト削減とりわけ廃棄率低減の取り組みが閉店間際の機会ロスを引き、客数の減少傾向が顕著となり計画した売上高の確保を行うことができませんでした。その結果、当第2四半期累計期間における業績は、売上高23,586百万円（前年同期比2.1%減）、営業利益は616百万円（前年同期比40.2%減）、経常利益は645百万円（前年同期比39.0%減）、四半期純利益は365百万円（前年同期比37.6%減）となりました。

ブランド別の売上は以下のとおりであります。

業態		平成24年4月期 第2四半期		平成25年4月期 第2四半期		対前期比
		売上	構成比	売上	構成比	
RF1		百万円	%	百万円	%	%
	サラダ	10,481	43.5	10,119	42.9	96.6
	フライ	3,301	13.7	3,847	16.3	116.5
	その他そうざい	3,835	15.9	3,018	12.8	78.7
	小計	17,618	73.1	16,985	72.0	96.4
神戸コロッケ		1,903	7.9	1,738	7.4	91.3
いとはん		1,578	6.6	1,728	7.4	109.5
融合		327	1.4	313	1.3	95.8
ベジテリア		1,026	4.3	1,065	4.5	103.8
グリーン・グルメ		1,548	6.4	1,679	7.1	108.5
その他		81	0.3	75	0.3	91.9
合計		24,084	100.0	23,586	100.0	97.9

主なブランド別の概況は次のとおりであります。

「RF1」ブランドにおきましては、ブランドの柱であるサラダの強化をすべく、『フレッシュ野菜のポテトサラダ』を始めとした定番商品について、過去からの変遷や自社他社の強みを改めて分析することで商品改良を行いました。また、明日以降にご利用いただける商品展開にも積極的に取り組み、冷凍のスープやココット料理等、まとめ買いやギフトにお使いいただけるよう展開商品を拡大しましたが、客数、客単価の改善につなげることはできず、売上高は16,985百万円（前年同期比3.6%減）となりました。

「神戸コロッケ」ブランドにおきましては、「コロッケ万歳！」をテーマに主力のコロッケ商品を強化する取り組みを行いました。新たな看板商品として『神戸ポテトコロッケ』をお求めやすい価格で導入した他、季節感のある期間限定コロッケを提案する等、今まで以上に手軽にご利用いただけるブランドを目指して参りました。その結果、売上高は1,738百万円（前年同期比8.7%減）となりました。

「いとはん」ブランドにおきましては、『無花果と燻製チキンの和さらだ』を始めとして、当社の強みである素材力と季節感をアピールした商品が全体の売上を牽引しました。また、和さらだとともに楽しんでいただく『きすと海老しんじょうのふっくら揚げ』等のフライ商品や、季節の野菜を使った和のポタージュ等、寒くなる時期に向けたホットメニューの展開を開始いたしました。その結果、売上高は1,728百万円（前年同期比9.5%増）となりました。

「ベジテリア」ブランドにおきましては、原点回帰と題し、野菜ジュースのさらなる販売強化に取り組みました。定番商品である『緑の健康バランス30品目』に加え、ケールやニンジンベースの商品等、より多くのお客様にご利用いただけるような販売促進の取り組みを行い、固定客の獲得に貢献しました。また、冷製スープや温冷兼用スープを継続して展開し、売上の底上げを図りました。その結果、売上高は1,065百万円（前年同期比3.8%増）となりました。

なお、当社はそうざい事業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。

（注）上記金額には消費税等は含まれておりません。

（2）財政状態に関する定性的情報

① 資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期会計期間末の資産合計は、前事業年度末と比べて574百万円減少し、28,429百万円となりました。これは、主に現金及び預金の減少648百万円、売掛金の減少284百万円、有形固定資産の増加128百万円、無形固定資産の増加137百万円、投資その他の資産の増加132百万円等によるものであります。

一方、負債合計は、前事業年度末と比べて498百万円減少し、5,945百万円となりました。これは、主に未払法人税等の減少453百万円によるものであります。

純資産合計は、前事業年度末と比べて76百万円減少し、22,483百万円となりました。これは、主に四半期純利益365百万円、配当金の支払による利益剰余金の減少424百万円等によるものであります。

以上の結果、自己資本比率は79.1%、1株当たり純資産額は1,692円95銭となりました。

② キャッシュ・フローの状況に関する定性的情報

当第2四半期累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前事業年度末に比べて868百万円減少し、7,437百万円となりました。

当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は、952百万円（前年同期比327百万円の減少）となりました。これは、主に税引前四半期純利益640百万円、減価償却費837百万円、法人税等の支払額697百万円等によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は、1,070百万円（前年同期比383百万円の増加）となりました。これは、主に有形固定資産の取得による支出466百万円等によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は、750百万円（前年同期比117百万円の増加）となりました。これは、主に長期借入金の約定返済123百万円、配当金の支払額423百万円等によるものであります。

（3）業績予想に関する定性的情報

最近の業績動向等を踏まえ、平成24年6月11日に公表いたしました平成25年4月期通期業績予想を修正しております。

詳細につきましては、平成24年12月4日に公表いたしました「業績予想及び配当予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計方針の変更

（減価償却方法の変更）

当社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期会計期間より、平成24年5月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

これにより、従来の方法に比べて、当第2四半期累計期間の営業利益、経常利益及び税引前四半期純利益はそれぞれ8百万円増加しております。

3. 四半期財務諸表
 (1) 四半期貸借対照表

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成24年4月30日)	当第2四半期会計期間 (平成24年10月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	8,606	7,957
売掛金	3,991	3,707
製品	58	60
仕掛品	64	100
原材料及び貯蔵品	256	196
その他	517	500
貸倒引当金	△1	△1
流動資産合計	13,495	12,521
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	7,369	7,340
土地	2,948	2,948
その他（純額）	2,451	2,609
有形固定資産合計	12,769	12,898
無形固定資産		
投資その他の資産	462	599
その他	2,287	2,420
貸倒引当金	△10	△10
投資その他の資産合計	2,277	2,410
固定資産合計	15,509	15,908
資産合計	29,004	28,429
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,140	1,172
1年内返済予定の長期借入金	243	239
未払法人税等	741	288
賞与引当金	500	507
その他	2,867	2,884
流動負債合計	5,493	5,092
固定負債		
長期借入金	222	102
その他	727	750
固定負債合計	950	852
負債合計	6,444	5,945

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成24年4月30日)	当第2四半期会計期間 (平成24年10月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,544	5,544
資本剰余金	5,861	5,861
利益剰余金	11,343	11,284
自己株式	△209	△209
株主資本合計	22,539	22,480
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	20	3
評価・換算差額等合計	20	3
純資産合計	22,560	22,483
負債純資産合計	29,004	28,429

(2) 四半期損益計算書
(第2四半期累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期累計期間 (自 平成23年5月1日 至 平成23年10月31日)	当第2四半期累計期間 (自 平成24年5月1日 至 平成24年10月31日)
売上高	24,084	23,586
売上原価	10,229	9,985
売上総利益	13,855	13,600
販売費及び一般管理費	12,825	12,984
営業利益	1,029	616
営業外収益		
受取利息	2	1
受取配当金	3	3
保険配当金	16	16
その他	16	11
営業外収益合計	38	32
営業外費用		
支払利息	4	2
障害者雇用納付金	4	—
その他	1	0
営業外費用合計	10	3
経常利益	1,057	645
特別損失		
固定資産除却損	16	—
減損損失	—	5
特別損失合計	16	5
税引前四半期純利益	1,041	640
法人税等	454	274
四半期純利益	586	365

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期累計期間 (自 平成23年5月1日 至 平成23年10月31日)	当第2四半期累計期間 (自 平成24年5月1日 至 平成24年10月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	1,041	640
減価償却費	803	837
賞与引当金の増減額 (△は減少)	23	7
受取利息及び受取配当金	△5	△4
支払利息	4	2
減損損失	—	5
売上債権の増減額 (△は増加)	△79	284
たな卸資産の増減額 (△は増加)	51	23
仕入債務の増減額 (△は減少)	18	31
その他	△89	△179
小計	1,769	1,647
利息及び配当金の受取額	5	4
利息の支払額	△4	△2
法人税等の支払額	△490	△697
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,279	952
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△120	△220
定期預金の払戻による収入	100	100
有形固定資産の取得による支出	△458	△466
有形固定資産の売却による収入	1	—
無形固定資産の取得による支出	△56	△168
長期前払費用の取得による支出	△145	△93
差入保証金の差入による支出	△37	△30
差入保証金の回収による収入	42	8
関係会社出資金の払込による支出	—	△200
その他	△13	△0
投資活動によるキャッシュ・フロー	△687	△1,070
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	△184	△123
リース債務の返済による支出	△156	△203
自己株式の取得による支出	△0	△0
配当金の支払額	△292	△423
財務活動によるキャッシュ・フロー	△633	△750
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△41	△868
現金及び現金同等物の期首残高	7,445	8,306
現金及び現金同等物の四半期末残高	7,404	7,437

(4) 継続企業の前提に関する注記
該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記
該当事項はありません。